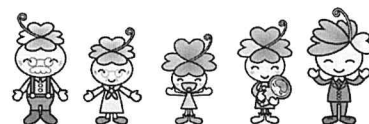


令和 4 年度 事業報告

令和 4 年度事業の概要

令和 4 年度は、前年に引き続きコロナ感染症で始まり終息が見えないものの、少し安心感の持てるコロナ禍で終わりました。令和 3 年 9 月に市社協による「第 6 次市原市地域福祉活動計画」が示した方向性に基づき、地域共生社会の実現を目指して、3 つの輪「連携・創設・実践」を基本に事業を実施しました。

「目標 1：人と人とのふれあいを育む場づくり」



(1)あそびばアネッサの開催（地域福祉支援事業&姉崎保健福祉センター共催）

本年度は、毎月実施の地域（子ども）食堂「げんき食堂アネッサ」の拡大版として多くの地域住民の参加を呼びかけ、感染対策を講じてボランティア・スタッフの協力のもとに無事開催した。

- ①日時・場所 令和 4 年 12 月 17 日(土) 10 時～13 時 アネッサ体育室
- ②開催目的
 - ・世代を超えた交流の場づくり
 - 参加者全員の総力で「共生社会の実現」に向けて開催
 - ・元気な高齢者の活躍の場づくり、こども達の居場所づくり
- ③参加者
 - ・一般参加者 47 名(子ども：33 名、保護者 14 名)
 - ・ボランティア 35 名
 - (内訳：うぐいす卓球サークル、近隣の大学生、元気な高齢者)
- ④今後へ
 - ・開催の認知度アップを図る(小・中・高校生を含め、家庭への PR 強化)。
 - ・本年度の開催で足元を固める事はできたため、持続できるようにする。

(2)地域食堂「げんき食堂アネッサ」の開催

元気な高齢者、高校生ボランティアの応援参加のもと、令和 4 年 5 月より、小学生を中心とした「子どもの居場所づくり」を実施した。

- ①日時・場所 毎月第 4 土曜日 アネッサ 実習室・ボランティアルーム
- ②目的
 - ・子ども、高齢者の居場所づくり、若者の担い手づくり
 - ・「子育て世帯・高齢者の孤立防止」、「地域のつながり」の場を目指した。
- ③周知
 - ・毎月、姉崎地区内の小学校へチラシを配布。
- ④参加者
 - ・子ども・保護者等 20 名程度 / ボランティア 20 名程度
- ⑤事業内容
 - ・自由遊び、勉強、折り紙、季節の遊びを盛り込み開催
 - ・ボランティアによる手づくりの美味しいカレー、ゼリーの会食（昼食）
- ⑥今後へ
 - ・1 年間の実施の検証（予算・人材・事業効果）を行う。
 - ・開始時から多くの方からの寄付、皆様に見守られてる事が実感できた。

(3)ふれあいサロン事業（茶話会）

コロナ感染禍、感染防止策「3密回避、入場制限、入場時の検温＆手洗い、使用前後の消毒」を徹底し、公民館会場及びアネッサ会場の2会場で実施した。

* 参加者数：公民館会場：延べ 138 名、10 回 アネッサ会場：延べ 268 名、11 回

* 新型コロナ感染防止対策の徹底を図り、ペットボトル飲料・お土産の配布

* 姉崎公民館会場では地区毎に3班に分割開催

* アネッサ会場では30名の定員オーバーが発生、公民館会場の紹介を行う状況であった。

(4)ふれあいサロン事業（子育てサロン）

コロナ感染禍、感染防止策「3密回避、入場制限、入場時の検温＆手洗い、使用前後の消毒」を徹底し開催した。子育て中のお父さん、お母さんとお子さんの元気な姿が見られた。

* 参加者数：延べ 319 名、11 回

* 孤立を防止するため子育て中のママへの精神的な支援を目的に「ママのメイク・アップ実技講座」等を開催した。

「目標 2：福祉を知ってもらう場づくり」

(1)広報部会

- ①広報誌「そよ風」を第 5 6 号（7 月）、第 5 7 号（1 2 月）に発行。
- ②発行数は、11,000 部。
新たに高齢者社会福祉法人へ配布し、姉崎地区社協の活動を知って頂いた。
- ③将来、SNS 等の新たな情報発信を行うため、新人・若手の人材確保が必要である。

(2)福祉バザー

コロナ感染症の拡大時期にあたり、令和 2、3 年度に引き続き市社協より中止の連絡があり、替わって「歳末たすけあい募金」を町会長連合会の協力で行った。
《募金額 379,300 円》

(3)地域交流事業（門前市への出店）

- ・ コロナ感染症の拡大時期、及び地区社協の主催行事開催と日程が立て込み出店を中止。
- ・ 次年度から、地区社協の日程上の問題で門前市への出店は取りやめる。
その代替事業として「福祉バザー」と「地域交流事業」を統合して、地区住民誰もが楽しめるイベントをアネッサ共催事業として開催計画する。

「目標 3：日常生活を支えるための体制づくり」

(1) おしゃべりカフェ（相談支援事業）

地域住民の「悩み・困り事」等を気軽にお茶・コーヒーを飲みながら、「ちょっといっぶくの気持ちでおしゃべりできる空間」を創っている。

【相談者数は、延べ 24 人】

- ①原則毎月第 1 水曜日 10 時～12 時 アネッサ相談室 2
- ②来場者への相談室開催の PR、入場し易い雰囲気づくり、お茶やコーヒー等の提供
- ③開始直前の館内放送、及び入口には開催案内用の旗・掲示の設置
- ④会場(相談室)のドアを開放し、室内がのぞける環境とし、ロビーにいる人に声掛け
- ⑤来訪者の目的が「相談事より誰かとお話をしたい」傾向に変化している。
…アネッサ設備の利用時の待ち時間に気軽に寄られ、お話をされる高齢者が増加
- ⑥おしゃべりカフェの周知はまだ十分とは言えない状況である。

(2) 市社協「送迎ボランティアサービス事業」の活性化に向けた協力

本事業は、市社協事業の「送迎ボランティアサービス事業」を姉崎地区で活性化を図るとともに「ボランティア活動の意識高揚」、「人材づくり、担い手探し」及び「地区内の交通弱者の支援」を目的とした協力事業である。

①活動内容

- ・養成講座の開催案内・参加者募集チラシ配布、及び広報誌そよ風への掲載。
- ・養成講座（10/24）には姉崎地区から5名が参加し、ボランティア登録した。
- ・翌月から実習を兼ねたボランティアサービス活動が開始した。

②今後、地区社協の先駆的・開拓的事業「人材育成事業」として、本講座を姉崎地区単独開催したい。

(3) 日常生活支援事業の検討

高齢者地域支え合い事業（第2層協議体）と一体となり、令和5年度実施に向け検討を行ってきた。その結果、令和5年度4月からの施行実施開始を皮切りに日常生活支援事業の本格実施へと移行する。

①検討メンバー 第2層協議体 15名

（地区社協構成団体・地域活動実践者・高齢者福祉法人 他）

②情報収集 有秋地区社協との連絡会や日常生活支援事業交流会等より入手。

③検討会議 第2層協議体会議：4回、地区社協プロジェクト会議：3回、小域福祉ネットワーク連絡会：1回 開催し実施要領を議論した

④結論

活動名称：『姉崎「ちょこっと」サービス』（通称「あねちょこ」）

…会議に参加した包括支援センターの実習生による命名

受付：平日水・金曜日（祝日除く）10時～14時

常任理事が当番で対応

「目標4：災害に強い地域づくり」

(1) 災害ボランティア事業

①災害ボランティアステップアップ研修会 11月24日 アネッサ 1名参加。

災害現場に赴いた時の準備品・装備品・現場での注意点などを体験した。

②次年度への取り組み、

災害ボランティアに関する研修会や訓練の参加による「経験・体験」をとおして、

災害ボランティア活動への意識の高揚を図り、災害時に地域住民の助け合い・支え合い活動ができる地域を目指す。

「目標 5：地域福祉活動推進のための基盤づくり」

(1)各種会議

正副会長会議開催

令和 4 年度 4 月新たに役員会議として正副会長 4 名による会議開催を提唱し、第 1 回を 5 月に開催。「正副会長間の意思統一」「地区社協活動の迅速な取り組み、事業活動・行動の修正」正副会長の常任理事会への考えの認識統一を図った。

(2)小域福祉ネットワーク連絡会議

姉崎地区の明神・姉崎・青葉台小学校区の 3 小域福祉ネットワークとの連絡会を開催した。

- ①開催月日 令和 5 年 2 月 1 5 日 1 0 時～1 2 時、アネッサ研修室
- ②テーマ 姉崎地区社協の「日常生活支援事業」について
…方向性・活動の流れについて、小域福祉ネットワークの連携について

(3)各種団体との連携づくり

有秋地区社協との連絡会を開催

- ①開催月日 令和 4 年 10 月 17 日 18 時～20 時 30 分 アネッサ研修室
- ②テーマ 双方が今後の取り組みを計画している事業について情報交換
…有秋地区：「日常生活支援事業くらしのささえあい実践報告」
…姉崎地区：「げんき食堂アネッサ実践報告」